

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570900229		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム花(2階)		
所在地	山口県山陽小野田市有帆662-11		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町受理日	平成25年7月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年 3月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念「皆に優しく、共に楽しく」地域の中でいつまでも自分らしく生活していける…のもと、横に座る・その人を知る・嘘をつかない・ゆっくりと穏やかにをケアの4つの柱とし、家庭的な雰囲気の中で心安らぐ暮らしを続けていただくことを目指しています。また人生の大先輩である利用者様に教えて頂きながら、味噌や梅干しなどを手作りしています。季節の花々を見に外出も度々しています。お一人お一人の希望にそって、初詣や音楽のコンサート、ケーキ屋や回転寿司などにも出かけています。また運営推進会議に出席の民生委員さんの紹介で地域ボランティアによるお茶会やフラワーアレンジメントの会を花で開いて頂いています。また自治会の祭りなど地域のイベントへの案内も頂き、参加した際には声をかけて頂いたり、さりげなく手助けをして下さったりと、開設12年目を迎え、年々地域との交流が広がり、深まっています。お寺のご住職様の月1回の法話の会は利用者様が心待ちにしておられる行事です。お隣の高千帆苑や地域との協力、連携を深める為、運営推進会議で避難訓練の様子を見学して頂きご意見、ご感想を頂きました。高千帆苑の避難訓練も見学させて頂き緊急時の協力応援体制を確認、約束する事が出来ました。利用者様の日々の暮らしや生活の表情を伝える「花メール」を毎月作成し、法人医院にて定期検診された結果と医師のコメントが記載された健康診断票と一緒に郵送しています。また、メールに載せきれない日々のご様子をポストカードにご家族にお送りしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議のメンバーに、新たに学校支援コーディネーター、有帆ふるさとづくり協議会事務局長、主任生活指導員を加えられ、幅広い視点で建設的な意見が出され、意見をサービス向上に活かしておられます。事業所の災害時避難訓練に運営推進会議のメンバーや地域の人、家族が参加され、避難時の課題について意見交換される他、隣接の特別養護老人ホームと相互に協力関係を築くなど、災害時の地域との協力体制を築いておられます。事業所独自で年2回家族アンケートを実施される他、利用者の様子を家族に伝える連絡ノートの活用、個別のケア会議、家族会など、家族の意見や要望を聞く機会を多く設けておられ、家族から何でも言ってもらえる関係づくりができていることで、家族から得られた意見等をサービスに反映させていく取り組みにつながられ、利用者が自分らしく安心して暮らしていけるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570900229		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム花 (3階)		
所在地	山口県山陽小野田市有帆662-11		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「皆に優しく、共に楽しく」地域の中でいつまでも自分らしく生活していける…。ノーマライゼーションのまちづくりの実践を理念とし、ケアの4つの柱である「横に座る、その人を知る、嘘をつかない、ゆっくと穏やかに」を全職員が共有し、熱意を持って尊厳に配慮した支援に取り組んでいます。利用者様がどのような状態になられても、安心して健康で生き生きと誇りを持って暮らして頂けるよう、出来なくなったところをそっとお手伝いする様に支援しています。食生活では、手作りで体に優しく品数の多い豊かな食事を提供しています。季節の行事や地域のお祭り、法話の会、誕生日会、家族会など地域やご家庭とのつながりも大切にしています。「花メール」の作成、定期検診、薬剤管理指導、歯科定期検診を毎月行い、特に口腔ケアには力を入れており、最後まで食事をおいしく摂って頂けるよう、口腔内の清潔に努めています。医師・看護師との24時間体制の連携を図り、看取りにも対応しています。11年経って、利用者様の重度化も進み、今までに8名の看取りをしてきました。法人の応急手当勉強会には全員が参加し、緊急時に職員一人一人が確実に対応できるように努めています。花では定期的に各人の手技の確認も行い、実践力の強化をしています。また2ヶ月に一度開催される運営推進会議では年1回法人の全グループホーム合同で、保健センターの管理栄養士を招いて試食会を開催し、食育についても勉強させて頂き、貴重な意見を伺い、サービスの質の向上に活かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1 2F	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各書類や名札の裏に理念と4つのケアの柱を明記し、ユニット玄関やスタッフルームにも掲示してあり職員全員で共有出来るようにしている。ユニット会議などでも理念を唱和し意識づけに努めている。また、接遇委員会の研修で言葉遣いや挨拶の指導を受けることにより、日々のサービスにつなげている。ケアプランや1ヶ月の目標にも取り入れ実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を事業所内に掲示し、理念に基づいた月毎のケア目標を掲げ共有して、理念の実践につなげている。	
1 3F	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月発行している「花メール」や各書類にも理念とケアの4つの柱を明記しスタッフ一人一人が名札の裏に携帯し、会議でも唱和している。理念から外れないよう常に話し合いを持ち、理念の実践に取り組んでいる。ご家族とのケア会議でも確認し、介護計画にも盛り込んでいる。		
2 2F	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊り、七夕まつり、どんど焼などの地区のイベントや市のふるさと祭り、お寺の行事にも参加している。毎年小学校から運動会や卒業式への案内があり応援・お祝いに行っている。運営推進会議出席者の紹介で、地域ボランティアの方がお茶会やフラワーアレンジメントを花で開いて下さっている。他のグループホームからも参加している。ご家族も新年会でボランティアで歌を歌いに来て下さることもある。	利用者は地域のふれあいまつりやはたる祭り、盆踊り大会、七夕まつり、どんど焼き等に参加して地域の人と交流する他、小学校の運動会の見学や卒業式への出席、児童館の催しものに参加して子供たちと交流している。フラワーアレンジメント、お茶会等でのボランティアの来訪、月1回法話に来訪している住職の寺の掃除に行ったり、近所の神社の掃除に行くなど、日常的に地域の人と交流している。	
2 3F	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会にお招き頂いたり、公民館でのしめ縄作りに参加したりしている。運営推進会議の際、地域の行事のお誘いを受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、民生委員や自治会の方々に認知症高齢者の理解や関わりについてお話しし、質問・相談を受けている。また、地域でお困りの高齢者がいないか尋ねている。		
2F					
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会で、認知症についての理解を議題にし、説明させて頂いたり、運営推進会議を通して自治会の方から認知症高齢者の方との関わり方について相談を受けたりしている。		
3F					
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングで評価の意義を全員に伝え、全員に自己評価を記入してもらい全員で自己評価に取り組んだ。外部評価の結果は花メールにてご家族や地域にお伝えし、運営推進会議でもお伝えしている。前回の評価の結果は会議にて取り上げ今後の改善案について話しあった。	評価の意義を理解しており、職員全員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価結果について目標達成計画を立て、全職員での理念の理解と実践、全ての職員が実践力を身につけるための緊急時や事故発生時の訓練の実施など、改善に取り組んでいる。	
2F					
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員に会議において自己評価の意義を伝え、皆で一ヶ月かけて取り組んでいる。評価の結果については回覧し、ミーティングで具体的に考察し、改善を行っている。ご家族には毎月発行の花メールで外部評価の結果をお知らせしている。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や生活の様子、行事などをパワーポイントや資料で報告している。ホームの見学もして頂いて参加者からの質問には直ぐにお答えしている。災害時お隣の高千帆苑や地域との協力、連携を深める為運営推進会議で避難訓練の見学をして頂いた。意見や感想を頂き今後の訓練に活かすことを話し合った。また訓練見学後、案内を頂き、高千帆苑の避難訓練見学、緊急時の協力応援体制を確認、約束する事ができた。	新たに、学校支援コーディネーター、有帆ふるさとづくり協議会事務局長、主任生活指導員の参加を得て、2ヶ月に1回開催している。利用者の現状や行事報告、外部評価への取組状況等を報告し、参加メンバーから地域の行事についての情報提供があり、地域との交流につなげている。事業所の避難訓練を運営推進会議のメンバーが見学して、災害時の避難訓練、地域との協力体制などについて意見交換するなど、サービスの質の向上に活かしている。	
2F					
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価の結果や利用者様状況などの報告をし、意見交換をして花での取り組みを知って頂いている。避難訓練を見学して頂き、出席者からの意見を今後の参考にさせて頂いている。隣接した高千帆苑の避難訓練への招待も受け、災害時の協力体制も、これまで以上に強固なものとなった。地域の行事案内、ボランティアの紹介等もサービス向上に活かしている。		
3F					
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人の代表・ケアマネ他多数参加している。ケアマネ協議会が市役所であり、地域包括支援センター・高齢福祉課の職員と共に医療・介護の在り方について研修を行っている。必要に応じて指示・指導を受けている。また、地域のグループホームで開催される連絡会にも参加してる。	市担当課や地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、市主催の地域ケア会議やケアマネ協議会に出席し、相談をして助言を得たり、情報交換をして、協力関係を築くように取り組んでいる。	
2F					
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人の代表、ケアマネ他多数参加している。ケアマネ協議会が市役所であり、地域包括支援センター、高齢福祉課の職員と共に医療・介護の在り方について研修を行っている。また、地域のグループホームの連絡会にも参加している。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約の時には重要事項及び契約書で身体拘束の理念や方針をご家族に説明している。マニュアルがあり、身体拘束ゼロについて毎年法人の勉強会とグループホーム勉強会を行っており身体拘束ゼロの意義、尊厳を大切にしたい対応を意識して利用者様と接している。ユニットの出入口にはベルやアラームをつけ、出入りを察知している。	マニュアルがあり、法人研修や、内部研修で学び、職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、職員同士で注意し合い、玄関の施錠はしていない。	
2F					
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり勉強会などで職員全員が理解し、どんな場合でも拘束はしないことに努めている。丁寧な言葉でも語尾が強くなる抑制的な言葉に聞こえてしまうので、接遇委員会でも基本の挨拶とともに語尾にも気をつけることに取り組み指導を受けている。職員の疲労や体調不良から拘束につながることもないよう休憩時間もとっている。		
3F					
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や法人の勉強会・グループホーム勉強会があり指導を受けている。法人のマニュアルもある。またケアにおいては身体的および精神的に虐待がないように注意を払い、防止に努めている。職員同士でも注意し合い虐待防止に取り組んでいる。高齢者虐待防止関連法についても学んでいる。		
2F					
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人のマニュアルがある。研修への参加やグループホームの勉強会、老健基本介護勉強会があり指導を受けている。またケアにおいては身体的及び精神的に虐待がないように職員同士で注意し合い虐待につながる言動がないか常に確認し合っている。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9 2F		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、管理者は外部研修で学んでおり、職員にも機会ある毎に説明を行っている。また、必要時ご家族にもこのような制度があることをお伝えしている。		
9 3F		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んでいる。機会ある毎に職員への説明も行っている。また必要時、ご家族にもこのような制度があることをお伝えしている。当法人でも成年後見制度、権利擁護事業の重要性を考え資格取得にも取り組んでいる。利用者様の権利についても定めがある。		
10 2F		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書をリーダーや介護支援専門員が詳しく丁寧に説明し、質問を受けながら疑問点や不安等の相談を受け、理解・納得を図り同意を得ている。退居時の敷金精算もしっかり説明し納得して頂いている。重要事項説明書の改定時にはご家族にしっかり説明し理解して頂いている。		
10 3F		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書をケアマネ、リーダーが詳しく丁寧に時間をかけて説明し理解、納得を図り同意を得ている。契約解除に至る場合は、ご本人・ご家族の要望に添うように援助している。契約や解約に関する疑問や不安は法人の相談員が受けている。改定時にはその都度ご家族に説明し同意を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書で相談・要望の受付 体制や処理手続きなどを詳しく説明して 納得して頂いている。また公的な苦情相談 窓口もお伝えしている。日々の会話の中で 利用者様が思っていることや意見や不満を 汲み取ることができるよう意識している。要望 箱の設置、家族会での年1回の座談会、個 別のケア会議、ご家族との連絡ノート、面会 時、電話での報告などたくさんの機会を設け 多くの意見が聞けるようにしている。	利用者の様子を家族に伝える連絡ノートを作 って活用する他、家族の面会時、電話、家 族会参加時、ケア会議出席時等で、意見や 要望などを聞いており、意見を運営に反映さ せている。事業所独自に年2回家族アンケ ートを実施し、その結果を事業所便りで報告 している。苦情相談窓口及び担当者、苦情解 決責任者、第三者委員、外部機関を明示し、 苦情処理の手続きを明確に定め、周知してい る。意見箱を設置している。	
2F					
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	法人として要望・相談対策委員会ならびに 第三者委員を設けている。要望箱の設置、 家族会での年1回の座談会、契約時には公 的要望相談窓口の案内もしている。個人の ケアカンファレンス、ご家族との連絡ノート、 面会時、電話での報告などたくさんの機会を 設け多くの意見が聞かれ速やかな対応を心 がけている。		
3F					
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングや申し送りの時など職 員の意見を聞く機会を設けている。リーダー は職員から意見や提案があった場合、管理 者に報告し運営会議やグループホーム部会 で議題にあげ反映している。脱衣所の床の めくれを上申しすぐに修繕してもらった。	月2回のミーティングで職員の意見や提案を 聞く機会を設けている他、日常の業務の中 で、管理者やリーダーが聞いている。浴室の シャワーチェアの工夫やリビングルームの テーブル数の増加、介護機器の改造や購入 などの意見や提案を反映させている。	
2F					
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のユニット会議で職員の意見を聞く機 会を設けている。リーダーは職員から意見や 提案があった場合、管理者に報告しグルー プリーダー会議で議題にあげ反映している。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	2F	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の能力を見極めてそれに応じた適切な仕事をしてもらう。今までして来られた様々な経験を活かし、人間として、家庭人として優しくすぐれた人が望ましいと考えている。資格に応じた手当もある。月リーダーや各役割分担をし、担当となることで自信や向上心につなげている。ノー残業週間もある。資格によっては手当のつくものもある。		
13	3F	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の能力を見極め、それに応じた仕事をしてもらう。請求業務や月リーダー、会計などの役割を分担し、担当になることで自信や向上心につなげている。資格取得も勧め、応じた報酬とともにやりがいのある職場作りの環境を整えている。希望休や有給休暇も取りやすくし、リフレッシュする事が出来る。		
14	2F	(9) ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マニュアルに添って新卒研修、途中入社研修があり、月2回の法人の勉強会や全体研修、グループホーム内での勉強会を実施し職員は積極的に参加している。ポイント制があり出席者、講師にはポイントが付くようになっている。法人は、看護師、介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得の助成に取り組んでいる。外部研修にも積極的に参加している。	外部研修は、職員の経験や段階に応じて、勤務の一環として受講の機会を提供し、全職員が共有できるよう報告書を作成し、資料を添付して回覧している。法人研修は、月1回の全体研修、月2回の基礎研修、応急手当の勉強会、トランス研修を実施し、職員は参加している。内部研修(身体拘束、緊急時の対応、感染症、インフルエンザ対策等)を毎月実施し、働きながら学べるように支援している。資格取得の支援もしている。	
14	3F	(9) ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を始め、新任研修、月2回の法人内の勉強会、花勉強会に参加している。ポイント制があり出席者、講師にはポイントが付くようになっている。介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得の助成を行っている。またグループで必要な資格研修にも多くの者が参加できるように職員の育成に取り組んでいる。外部研修にも参加している。研修後の報告書をスタッフ全員で回覧し、知識・技術の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15	2F	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にグループホーム連絡会があり、施設見学や勉強会、交流会に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。運営推進会議の際、近隣のグループホームにも参加頂き情報交換も行っている。		
15	3F	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に県宅老所、グループホーム協議会やグループホーム連絡会があり、施設見学や勉強会、交流会を通じ、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16	2F	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学の機会を設けている。ご本人の不安や思いを受け止め安心してもらえる機会を作り、利用するにあたっての不安を解消するように努めている。本人やご家族から生活歴をお聞きし、寄り添い表を作成し、職員で情報を共有できている。		
16	3F	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の時に施設の中の様子や居室を見て頂き、心配なことはないか利用者様の不安や要望を聞く機会を作っている。また、ご家庭からいらっしゃる方には家庭訪問をするようにしており、お部屋作りにも活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	2F	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには法人相談員が丁寧に対応している。管理者、リーダーは相談員と調整してご家族の思いを聞く機会を早くから設け、その思いを受け止められるよう連携している。また、担当職員もすぐに配置し対応するようにしている。ケアプラン作成の際にもお聞きしている。面会時お茶や身元引受人様には記録等お持ちした際、苑での御様子をお伝えすると共にご家族の不安や希望も伺っている。		
17	3F	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには、法人相談員が丁寧に対応している。管理者、リーダーは相談員と調整してご家族の思いを聞く機会を早くから設け、その思いを受け止められるよう連携している。見学される方も多い。		
18	2F	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・法人相談員・ケアマネ・グループホーム職員が連携を取り、ご本人と家族がまず何を必要としているのか、生活の場所としてグループホームがいいのか、現在どういう状況でありどのような支援が必要なのか話あっている。他のサービスの情報の提供も行っている。		
18	3F	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族からお話を伺い、管理者、ケアマネ、相談員、職員が連携を取り適切なサービスが無理なく行えるようにしている。法人施設で入居を待たれる方も多く、無理のない適切なサービスが受けられるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	2F	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にするとはどういうことなのか、日々の関わりの中で常に意識して支え合う関係を築いている。利用者様は人生の大先輩で味噌作りや料理の味付け等日々の生活の中でも教わる場面をたくさん作っている。特に若い職員にとっては学ぶ事も多い。		
19	3F	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様という関係ではなく、人々としての関係を築くことが大切と考えている。日々の暮らしの中で、利用者様が先生で教えて頂ける場面が多くある。自己選択できることをたくさん作っている。		
20	2F	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花メールや居室に写真を飾り、面会時に日々の様子をお見せできるようにしている。家族関係やその方の性格、性質状態や環境に合った方法で、利用者様の日々の暮らしの様子や出来事や気付いたことなどを身元引受人様に細目に報告してご家族との関係を築き一緒に本人を支えていくようにしている。		
20	3F	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時にはお茶をお出しし、個人記録や連絡帳を見て頂き、ご本人の言葉や行動、気付いたこと等、日々のご様子を細かく報告している。ご家族と共に利用者様を支えていけるよう、話しやすい雰囲気作りに努め、ご家族の思いも尊重しながら信頼関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会はいつでも良いことをお伝えしている。大切にしてきたなじみの関係を途絶えることのないよう支援している。また、以前から親交のあるお友達に会える支援に努めている。入居前から使っておられた馴染みのスーパーや美容室に行かれる方もある。	親戚や近所の人、友人や知人の来訪、地元のスーパーや商店での買物、馴染みの美容院の利用、家族の協力を得ての結婚式や法事への出席、盆・正月の外泊、日帰り旅行（美術館）に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
2F					
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会はいつでも良いことをお伝えしている。お里帰りされ近所回りをされる方もおられる。大切にしてきた馴染みの関係が途絶えることのないよう支援している。また、以前から親交のあるお友達に会える支援に努めている。		
3F					
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間同士でお話をされていたり、お部屋を行き来し互いを心配し合う場面も多く見られる。必要に応じ職員が間に入り仲を取り持ったり、トラブルのにならないようさりげなく支援している。体調不良や介助の必要な方に対して気遣いや優しい言葉やはげましの言葉をかけて下さる方がおられる。性格、性質、状態、好み等特性や相性を把握し、その時のその方に合った方法で他者との関係を取り持っている。		
2F					
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しやすい方同士の席を近くにする等、食堂での席を工夫したり、難聴等で会話が困難な場合は、職員が仲を取り持つようになっている。複数で家事をして頂いたり、その方の良い所を引き出せる様な場面作りをしている。全員での外出よりも1人2人で気の合う仲間と外出をしている。食事の際に食欲のない方を励ましながらか一緒に食べておられ、支え合える場面作りに努めている。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	2F	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際にはお見舞いに行っている。 退居される方には次の施設への相談も受けている。		
23	3F	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際にはお見舞いに行っている。 退居される方には次の施設への相談も受けている。亡くなられた方のご家族も帰省された際には訪問して下さる。初盆には必ず職員がお参りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	2F	(11) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新の際や随時、希望や意向をお聞きしている。つぶやきシートを活用し普段何気なく言われたことやされた事を見逃さない様書きとめている。日々の行動や表情、会話に気を配りその方の思いや希望、サインを見逃さないようにしている。自己選択、自己決定できるような声掛けに努めている。食事の時は、利用者様の横に座り、一緒に食べながらお話をして思いを聞けるようにしている。気軽に希望を言って頂けるような関係作りに努めている。	ケース記録に利用者の日々の生活や行動を記録し、日常の関わりの中で聞き取った利用者の言葉や細かな様子を「つぶやきシート」や「寄り添い表」に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	
24	3F	(11) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	つぶやきシートに日常の何気ない言動を記録し、職員間で共有している。寄り添いや利用者様同士のお話の中から思いに気付けるように耳を傾けている。意思が伝えられない方でも何らかのサインを出されているので見逃さないようにしている。食事の時は、利用者様の横に座り、ゆっくりと一緒に食べるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	2F	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方のペースで生活して頂ける様支援している。利用者様、ご家族から今までの生活環境や生活歴を開ける範囲でお聞きしている。寄り添い表を作成し今までの生活歴の把握に努め、出来るだけ今までと変わらない生活ができるよう支援している。聞きづらいことは十分配慮してお聞きしている。日々の何気ない会話からも今までの生活や昔話を聞き逃さない様気を付けている。		
25	3F	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、面会時、家族会、ケアカンファレンスの機会を利用して一人一人の生活歴や生活環境についてご家族からお話をお聞きし、新しく伺えたことは記録に追加で記入し把握に努めている。利用者様との話の中からも聞けている。		
26	2F	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に1日の過ごし方や心身の状態やご本人の言葉を詳しく記載しており、生活リズムを把握するようにしている。ケース記録、業務日誌、つぶやきシート、チェック表等毎日の記録の他、連絡ノート、アセスメント表、や会議、口頭での情報交換などからもその方の状態を把握しスタッフ間での情報共有できるようにしている。急な連絡事項等は必ず申し送りしている。		
26	3F	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴を参考にしながら、つぶやきシートや個人記録、連絡帳に小さな事でも気付きを記入することで、一人一人の生活リズムを知るようにしている。心身状態等に変化のあった場合は、文面や口頭により、職員間で情報の共有に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12) 2F	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の際には、ご家族の参加を呼びかけ、本人・ご家族・担当職員・ケアマネ間で意見の交換の場を作っている。利用者様、ご家族には要望や希望をお聞きし、利用者様がその方らしく生活していけるようアセスメントし、ケアプランを作成している。ケア会議、モニタリングにて全職員が統一したケアを提供できるようにしている。	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に、家族の参加を得てケアカンファレンスを開催し、家族が参加できない場合は、事前に電話で意見を聞いて、家族、利用者、主治医の意見を参考に介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施して、見直す他、本人の状態に変化が生じた場合は、その都度、見直しをしている。	
27	(12) 3F	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	要望を利用者様に直接伺うと共に、日々の会話を利用者様が言われたそのままの言葉でつぶやきシートに記入し、参考にしている。ご家族には面会時や電話にて伺っている。ケアカンファレンスにて、ご本人・ご家族・職員間で意見交換し、介護計画を作成している。三ヶ月毎に見直し、状況の変化に応じてモニタリングし変更している。必要場合は、他職種職員にも助言してもらっている。		
28	2F	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には、発言や行動など細かいことでも詳しく記入している。介護記録、看護記録、ご家族欄と分けて記入できるため一目見て分かるようになっている。つぶやきシートも利用し記載もれのない様にしている。また、連絡帳を活用し職員間での情報の共有化を図り、ケアの実践に取り組んでいる。ご家族や利用者様の要望・希望が適切に実行されているか一目で分かるように色分けしている。		
28	3F	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	つぶやきシートや個人記録には利用者様の発言や行動等細かいことでも詳しく記入している。利用者様とご家族の要望を色分けして分かりやすくしている。また、気付いた事は連絡帳を活用し職員間で情報の共有化を図り、ケアの実践・介護計画の見直し等に活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	2F	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋を活用しショートステイサービスを行っている。デイサービス利用者様の時間延長サービス時食事を提供している。24時間医療連携をしている。定期的に健康診断は無料でお連れしている。他科受診やリハビリ受診の付き添いサービスをしている。定期検診以外にも、定期的な膝の注射への付添いも行っている。医師の往診もある。		
29	3F	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間医療連携をしている。定期の健康診断は無料でお連れしている。他科受診の付き添いサービスをしている。また、ご希望により、墓参りや選挙にも行って頂いている。空き部屋を活用し、ショートステイサービスも行える。デイサービス利用者様の時間延長サービス時食事を提供できる。		
30	2F	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館での催しに参加させて頂いている。法人のお祭りには地域の方も来られ多くのボランティアの協力がある。運営推進会議には消防署、民生委員、公民館長、市役所、近隣のグループホーム職員を招き、連携を深めている。		
30	3F	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に自治会長、民生委員、公民館長、消防署、また近隣の施設生活相談員を招き、連携を深めている。公民館、文化会館での催しに参加している。法人祭りには多くのボランティアの方の協力がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人のクリニックで定期に検診を受けている。必要時、病状報告をFAXしており、電話でも報告している。定期検診に行くことが難しい方には、在宅総合診療を行っている。緊急時には、休日、夜間でも医師と連絡が取れる。また、入居前のかかりつけ医にご家族と協力して通院介助、付添いの方やかかりつけ医へ情報伝達をして適切な医療が受けられるよう支援している。	事業所の協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関がかかりつけ医となっている。協力医療機関については、月1回の定期受診があり、緊急時には24時間いつでも対応できるよう支援している。歯科は月4回歯科医師、歯科衛生士の往診があり、利用者の状態に合わせて治療や相談を受けられるよう支援する他、他科受診は家族の協力を得て支援し、情報を伝達するなど適切な医療が受けられるように支援している。	
2F					
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回法人のクリニックへ定期検診に行っている。毎週月曜日には病状報告をFAXしており、電話でも報告している。定期検診に行く事が難しい方には、在宅総合診療を行っている。また、入居前のかかりつけ医にご家族と協力して通院介助、情報伝達をして適切な医療が受けられるよう支援している。		
3F					
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム職員に看護師がいる。平日は1階デイサービスにも看護師がおり、常に健康管理や状態変化に対応している。法人のクリニックの看護師が週1回訪問し利用者様の健康状態を把握し相談をしアドバイスをもらっており、医師との連絡役もしてもらえる。		
2F					
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム職員に看護師がいる。平日は1階デイサービスに看護師がおり、常に健康管理や状態変化に対応している。週1回法人のクリニックの看護師が訪問し利用者様の健康状態を把握して、相談したり助言をもらえる。医師との連携も取っている。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	2F	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様のサマリーを作成し職員からも病院などに様子をしっかりと伝えている。入院先から問い合わせがあった時には口頭でも細かくお話している。相談員を通して主治医やご家族と相談して認知症が進まないように早期退院に心がけている。退院後は法人のリハビリを受けてホームへ復帰している。入院中も度々訪問し様子を伺うようにしている。		
33	3F	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の様子を詳しく説明し、対応がスムーズになるよう支援している。主治医、相談員を通してご家族と検討、相談している。認知症が進まない様に早期退院を心がけている。退院後は法人の老健でリハビリを受けてホームへ復帰している。希望があれば、入院されてもお部屋をキープする事ができる。入院中も度々訪問し様子を伺うようにしている。		
34	(14) 2F	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の理解・協力を得て看取りをしている。看取りについては早い段階からご家族・医師・看護師等と話し合いの機会をもっている。状態の変化がある度にご家族に随時意思の確認をしている。ご家族はいつでも宿泊することができ、食事も提供している。在宅総合診療があり、24時間対応の看取りのための専門体制も整っている。終末期の指針・マニュアルもある。最期の時まで尊厳を保ち、ケアを行っている。ターミナル期における3つの指針を作成し、法人全体の指針ともなっている。	重度化や終末期に向けた指針があり、契約時に事業所でできる対応について家族に説明をしている。ターミナルケアについては家族の協力を得て、医療機関、家族、職員全員で話し合い、方針を共有して、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望される方には専門体制があり、医師や看護師が24時間体制で待機している。状態の変化がある度にご家族に意思の確認をし、職員間では頻繁にミーティングを行い、適切なケアを支援している。医師とご家族の話し合いも頻回に持ち、ご家族の協力も得ている。管理栄養士の指導を受け、最期の1スプーンまで経口摂取できるよう支援している。毎日医師が状態把握をしている為ご家族も安心されている。花独自の看取りの指針を作成し、実践に取り組んでいる。		
3F					
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	月2回の法人の勉強会があり、職員全員が事故防止や迅速な対応ができるように学んでいる。インシデント・アクシデントの見直しをユニット会議でおこなっており、インシデント・アクシデントを活用し職員間でもリスクについて確認しあっている。マニュアルがある。応急手当推進委員会を法人内で立ち上げ最終的に全職員が緊急時の応急手当や初期対応の実践力を身につける事を目標とし活動しており、定期的に講習や確認テストがある。	インシデント・アクシデント報告書に、その場にいた職員が記録し、月2回のケア会議で話し合い、検討して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。法人の救急救命講習への参加や応急手当推進委員会の研修会(月2回)の実施、急変時、事故発生時の対応、誤嚥時の対応等の内部研修の実施など、全職員が実践力を身につけるよう取り組んでいる。	
2F					
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時マニュアルがある。法人の勉強会もあり、職員全員が事故防止や迅速な対応が出来るように学んでいる。インシデント・アクシデントを活用し職員間でもリスクについて確認し合っている。緊急連絡網があり、24時間体制で医師・看護師と連携が取れるようにしている。法人で応急手当推進委員会を立ち上げ、全職員が勉強会に参加し、緊急時に対応できる実践力を身につけるよう取り組んでいる。定期的に確認、訓練も行っている。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災・災害(地震)の避難訓練を行っている。利用者様も参加され、避難経路の確保や怪我等を想定した処置方法も指導を受けている。運営推進会議で地域の方やご家族、お隣の高千帆苑の職員に訓練を見学して頂きご意見をいただいている。高千帆苑の訓練の見学もさせて頂き、緊急時お互いに協力し合う事を約束している。消火器は誰でも操作できるよう訓練している。地域への協力体制は運営推進会議の際、具体的な話し合いをしている。	年2回、夜間想定災害時避難訓練、通報訓練、消火訓練を、実施している。訓練に、運営推進会議のメンバー、地域の人、家族の参加を得て、避難時の課題や提案について話し合うなど、地域との協力体制を築くように取り組んでいる。	
2F					
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災や地震の避難訓練を行っている。消火器は誰でも操作できるように訓練している。避難経路の確保や怪我等を想定した処置方法も実地指導を受けている。地域への協力体制は運営推進会議の際、具体的な話し合いをしている。隣の高千帆苑と避難訓練を相互に見学し、緊急時には協力し合う事を確認している。		
3F					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルがあり見直しもしている。ボランティアの受け入れ時にも説明している。ご家族には契約時、室名札・写真掲載許可の署名を頂いている。記録物は所定の場所に保管し、代理人の方にのみしか公表していない。接遇研修もあり、丁寧な言葉使いや挨拶が出来るよう全職員で取り組んでいる。	月2回の法人の接遇委員会で学び、ミーティング等でも確認して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
2F					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルがあり見直しもしている。ボランティアや実習生の受け入れ時にも説明している。ご家族には契約時、室名札写真掲載許可の署名を頂いている。記録物は所定の場所に保管し、代理人の方にのみしか公表していない。接遇委員会もあり、研修に参加し、丁寧な言葉遣いや挨拶が出来るよう全職員で取り組んでいる。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	2F	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己選択できるような声掛けをしている。職員の都合に合わせず、色々な選択肢を提案し、一人一人の思いや希望が引き出せるようなその方にあったコミュニケーションの方法を取り入れている。行事計画も利用者様の希望を聞き立てている。おやつや飲み物もたくさん用意しお好きな物を選んで頂いている。		
38	3F	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも利用者様が決定できるよう、問いかける言葉遣いに心がけ、話しやすい雰囲気を大事にしている。職員の都合に合わせず、入浴の時間・おやつ・衣服を選んでもらう等、色々な場面で選択肢を提案し自分で決めて頂いている。行事計画にも利用者様の希望を反映している。		
39	2F	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の1日の暮らしの流れを日頃の寄り添いや生活歴から把握し、その方のペースに合わせ起床時間や食事時間を調整し、1日を過ごして頂けるよう柔軟に対応している。安心してゆっくりと過ごして頂けるよう支援している。		
39	3F	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・起床・散歩・入浴など今までの生活習慣と利用者様のペースに合わせた生活が出来るように支援している。日々の寄り添いの中で、利用者様の希望やお好きな物を伺い、多くのものを献立に取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	2F	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装も利用者様の好みを大切にし、その方らしさ、気候、天候に配慮し恥をかかせない身だしなみに気をつけている。認知症、身体状態により援助が必要な場合は誇りやプライバシーに配慮しながら援助している。外出時には一緒に衣服を選び帽子や靴、ひざかけなどこだわりもあります。認知症の進行で自分で選ぶ事が困難な場合もご家族からお聞きしたり、以前好んでおられたものを身につけて頂いている。入居時には季節に合わせた外出着、帽子なども用意してもらっている。		
40	3F	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、その日の気分に合わせて、好みの服装を選択して頂いている。出張散髪では、ご本人のお好きな髪形にして頂いている。外出時には、整容、整髪に特に注意し、どこに行かれても恥ずかしくないよう配慮している。		
41	2F	(18) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から好み等をお伺いしている。好みや状態に合わせて提供している。季節感のある献立を心がけ職員も一緒に食卓につき、一緒に食事を摂っている。席もその方の状態や関係を考慮し決めている。片付けもそれぞれの方に役割があり職員と一緒にしている。行事食やバイキング、珍しいメニューの時はとても喜ばれる。時には計画を立てお好きな物を担当職員や仲の良い方と食べに外出する事もある。	昼食は法人からの配食を利用し、朝食と夕食、おやつづくりは利用者と職員が一緒にしている。お好み焼きや焼きそば、餃子を作ってパーティを開いたり、梅干しの作り方を利用者から教わったり、季節を感じる月見団子や柏餅、恵方巻きを作る他、利用者の希望に沿って、仲の良い人同士で個別に夕食(回転寿司、和食、ケーキセット等)にでかけるなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
41	3F	(18) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は法人内の厨房より配食を利用し、朝夕の食事は利用者様のリクエスト等により献立を決めている。形態も一人一人に合わせて、粥や刻み食、ゼリー食、ミキサー食と対応している。食欲をそそるよう、きれいに盛り付けるように心掛けている。食事の準備や片付けも一緒にして頂いている。誕生日や行事には手作りのおやつを作ったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	2F	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による指導を受け、食事の偏りがないうバランスの良いメニューを考えると共にその方にあった食べやすい食事、食べたいと思って頂ける食事を提供する為、食事形態や席、食器等も工夫している。チェック表があり毎日の食事量・水分摂取量を記録し医師にも相談・指導を受けている。持病や肥満・やせ等身体上たいを考慮した献立を心がけている。体重のチェック表を作成し経過を見る。嚥下状態の悪い方にはとろみ剤を使用している。		
42	3F	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による指導を受け、食事に偏りがないうバランスの良いメニューを考えるとともに、毎日の食事・水分摂取量を記録し医師にも相談・指導を受けている。1日1600キロカロリーの食事为目标にし、カロリーオーバーにならないように体重のチェック表を作成している。確保の困難な方には、好みの物に替えて頂けるよう工夫している。必要に応じて、食事介助している。		
43	2F	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に口腔ケアの声掛けをしている。また、困難な利用者様には義歯の洗浄や口腔ケアを支援し清潔保持に努めている。曜日を決め、洗浄剤に浸け除菌している。月1回、また必要時に歯科医師による口腔ケア指導を受けている。義歯の調整や作り変えも行っている。肺炎や誤嚥の防止に努めている。		
43	3F	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に口腔ケアの声掛けをしている。また、困難な利用者様には義歯の洗浄や口腔ケアを支援し清潔保持に努めている。定期的にポリデントにつけている。月に1回、また必要な時に歯科医師による口腔ケアの指導を受けている。歯ブラシを工夫し、クルリーナ、舌苔トルなどを使い分けている。月1回は歯ブラシの点検をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、自立排泄にむけた支援をしている。リハパンから布パンツになられた利用者様もおられる。尊厳に十分配慮し適切に行っている。立位の難しい利用者様はスタッフ2名でトイレでの排泄を支援している	利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握することで、その方に合った対応を取っている。プライドを傷つけないよう声掛けにも気を付け、最後まで自力排泄できるよう支援している。たとえオムツになられても、その方に合うオムツの種類も多数用意している。パット等の使用を減らすように気を付けている。トランスファーの勉強会にも参加し、皆が身につける事で活用している。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表がある。野菜や繊維の多い食品、水分、規則的な生活、活動への参加なども便秘予防になっている。オリゴ糖や乳製品などを利用している。栄養バランスに注意している。医師や看護師、薬剤師にも相談しその方に合った薬の使用も出来る。力が入らず力めない方には、マッサージしたりや腹圧をかけたり状態を把握しその方に合った対応をしている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表により、排便の有無を把握している。食物繊維の多いもの、乳製品、オリゴ糖などを取り入れたり、適度に体を動かすことや、散歩などで便秘解消に努めている。水分摂取にも心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限りその方の希望にそえる様入浴時間や回数等対応している。温度や入浴剤の使用も調整している。入浴時間は14時からとし、一番風呂を希望されている利用者様には一番に声かけし入って頂いている。好みの温度に合わせてゆっくり入浴して頂いている。全介助の方、一部介助の方、見守り・声掛けで良い方、拒否のある方さまざまな状態に合わせ無理強いせずその方のペースで安全に気持ちよく入浴して頂ける様支援している。シャワー浴、足浴、清拭も対応している。浴室、脱衣所の室温も調節している。入浴前にはバイタル測定し安全に入って頂く様にしている。	14時から、利用者一人ひとりの希望に合わせて入浴出来るように支援をしている。夜間に入浴することも可能である。1階にあるデイサービスセンターの大浴場でゆっくりと入浴を楽しむ支援もしている。入浴したくない場合には、無理強いをせず、タイミングや状態に合わせて、利用者が安心して入浴できるように支援している	
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お好みの湯温に合わせ、その方のペースで、ゆっくりくつろぎながら入浴して頂いている。石鹸やタオルも肌質や状態に合わせて使用している。職員2名での介助の入浴もあり、要介護5の方もシャワーチェアを使用し、入浴して頂いている。入浴が難しい方は清拭も行っている。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室になっているため、休憩や昼寝など自由に取れるようになっている。食堂や廊下にはイスやソファがたくさんあり好きな場所でお好きな方と過ごして頂くことが出来る。空腹で寝付けない方には軽い食べ物やお好きな飲み物をお出しし眠れるように支援している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	南東向きの障子窓から射す朝日を浴びて、自然な睡眠パターンを作り、生活のリズムが整うよう支援している。空腹から寝付けない方もおられるので小さなおにぎりやお菓子、温かい牛乳を用意して対応する事もある。また、体調に合わせ、日中お好きな時に休んで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	2F	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は必ずお一人ずつに手渡しし、確実に飲まれたか最後まで確認している。与薬マニュアルを作成し手順に沿って行っている。ミスをなくするため色や目印をつけている。変更があればケース記録、日誌、連絡ノートに記録し薬の説明書を回覧して情報の共有が出来る。2週間に一回の薬剤管理指導で薬剤師より薬の効能・副作用・用法などの指導を受け、相談もできる。医師との間に入って調整して頂くことも出来る。状態の変化が見られた時は医師に状態を伝え見直している。		
48	3F	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬マニュアルがあり、目的や副作用が書かれた説明書は回覧する事で、全員が理解している。その後も、いつでも見られるように、台所にファイルして置いている。服薬時は必ずお一人ずつ手渡しし、確実に飲まれたか最後まで確認している。2週間に1回の薬剤管理指導で薬剤師より効能・用法・副作用などの指示を受けている。状態の変化が見られた時は医師に状態を伝え、見直しをしている。ご家族にも書類に目を通して頂きサインも頂いている。		
49	2F	(21) ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴をふまえ、家事や、裁縫、餅つきや漬物を漬けたりその方の経験や知恵を発揮できる場面作りをしている。年間を通して季節ごとに様々な行事を企画・実施し参加を呼び掛けている。お寺の行事、お祭り、季節の花を見に出かけたり、外食したり気晴らしの支援をしている。	洗濯物を取り入れたり、たたんだり、窓ふきや居室の雑巾がけ、テレビ視聴、新聞を読む、裁縫(クッションづくり)、味噌づくり、習字、漢字パズル、数字合わせ、水槽の亀の世話を、ラジオ体操、ボール遊び、風船バレー、ボランティアと一緒にフラワーアレンジメントや抹茶、フルーツ演奏など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
49	3F	(21) ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事用の食事作りで、若い頃の思い出に花が咲いたり、洗濯物たたみや、食器拭きをご自分の役割としておられたり、数字・漢字パズルに熱中されたり、それぞれの利用者様に合わせて、色々な機会を提供する事で、活気のある日々を過ごして頂けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前に計画を立て、その方の希望に添える様さまざまな外出の機会を設けている。買物、ドライブ、外食、季節ごとに花を見学に行くなど頻繁に外出の支援をしている。リフト車もあり車椅子の方でも外出できる。必要な日に人員を多めに配置するなどの調整もできる。寄り添いの中で行きたい場所、食べたいものなど自然な形で聞き取れる様にしている。コンサートや地域の行事にも出かけている。その際には地域の方の協力がある。車いすの方もリフト車を使用し外出できている。	季節の花見(桜、つつじ、菖蒲、バラ、コスモス、紅葉)、ドライブ(焼野海岸、赤崎神社、東行庵、竜王山)、花火大会に行く他、ショッピングモール、スーパーなどでの買い物、レストランや回転寿司等の外食、歌手のコンサートやフルートコンサート、県立美術館、歴史民俗資料館の鉄道展に行くなど、家族や地域の人の協力を得ながら戸外に出かけられるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季の花見や外食、ドライブなど外出の機会を支援している。リフト車を使用し、車椅子の方も外出する事が出来ている。誕生日には遠出をする事もある。看取りとなられた方の「うちに帰りたい」サインをくみ取り、一時帰宅を支援した。ご家族の協力で仏壇に手を合わせて頂くことも叶った。		
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者様はご家族と相談し、少額を個人で持って頂いている。買い物へ行く機会を作り、お参りの際お賽銭をご自分の財布からだされたり、スーパーや毎週来られる移動パン屋さんでご自分で支払いが出来る支援を行っている。		
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態に合わせて買い物時に払って頂いたり、少額を管理されている。毎週水曜日には移動パン屋さんに来られるので、その時にご自分で支払って頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	2F	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階には、自由に掛けることのできる公衆電話を設置している。携帯電話の持ち込みもできる。手紙も自由に書いて頂いている。分からない字があれば一緒に考えさりげなく支援している。ご家族や知人などから届いた手紙を嬉しそうに見ておられる。		
52	3F	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に携帯電話を置かれている方はいつでもお好きな時に掛けられるように充電している。1階には自由に掛けることのできる公衆電話を設置している。毎年、元旦には年賀状が届き、楽しみにしておられる。		
53	2F	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気居間などには、季節感のあるものを飾っている。絵画やインテリアなどにも配慮し文化的な生活支援を行っている。子供っぽくならないように注意している。照明や室温も不快にならない様に調節している。光については、厚いカーテンを使用せず、障子を通して陽の光、夕日、月の光を感じて過ごして頂いている。空間作りも含めて、グループホームの文化度の向上にも努めている。	広くて明るいリビングダイニングには、大きなテーブルとイスがあり、事業所の行事の内容によっては、配置換えできる。壁には絵画が飾っており、畳の間には冬はコタツになる広い座卓がある。窓の障子を通して外の光が入るなど、音や光に配慮して居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53	3F	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には和室があり、障子を通して光が入るようになっている。テレビや音楽、職員の声のトーンなど不快感を与えないようにしている。ご飯の炊ける匂い、茶碗を洗う水音などの生活感や季節のものを取り入れた食事作り、花や飾りなどで季節感を感じて頂けるよう工夫している。温度・湿度調節、清掃や整理整頓にも心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	2F	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にはソファがあり、仲の良い方同士でゆっくり過ごせる場所を確保している。新聞や本を読まれたり、音楽を聞かれたり思い思いに過ごされている。笑い声も良く聞かれる。美しく快適で心地の良い場所作りを目指し隅々まで細やかな心使いに努めている。		
54	3F	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂の窓辺、ホールで一人の時間を過ごすことが出来る。廊下をゆっくりと歩きながら壁の絵画や花を楽しんで頂ける。		
55	(24) 2F	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談し利用者様と一緒に居室作りをお願いしている。自宅で使われていた家具・道具・アルバム・テレビ・植木鉢などを持って来られ居心地の良い居室作りに努めている。その方の状態に合わせご本人、ご家族と相談しながら部屋作りをしている。カレンダーに面会に来られた日や予定、楽しみ事を記し、日記を書かれている方もある。居室の床は全面カーペットにしてあり、障子越しに1日中暖かく柔らかな光が入る。	使い慣れたタンスや鉢植えの花を持ち込んでいる。家族の写真や孫が描いた絵、壁掛け、職員と一緒に作った作品などが飾っており、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55	(24) 3F	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥や椅子、鉢植えなど使い慣れた馴染みのものや、長年飼っておられた犬やご家族の写真を飾り、居室作りされている。お孫さんが持って来られたレゴが飾られている居室もある。居室の障子からは1年中暖かく柔らかな光が入る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	2F	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に過ごせるようにバリアフリーになっており、廊下やトイレには高さや握りやすさに配慮した手すりがある。車いす用と一般のトイレがあり、便座の高さが異なるので利用者様の体、好みに合う方を使用して頂いている。介助の邪魔になる物の位置を変えるなどして改善し広く動きやすいように工夫している。トイレにはナースコールがあり使用される方もある。ナースコールのついた居室もあり、状態に合わせ使用して頂いている。		
56	3F	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は安全に配慮し、バリアフリーになっている。トイレ・浴室・廊下には握りやすい手すりが設置してある。トイレには車椅子用と一般用があり、便座の高さが異なるので利用者様の体に合う方を使用して頂いている。キッチンカウンターは作業しやすいように設計されている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム花

作成日： 平成 25年 7月 6日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応の訓練の実施はできているが、すべての職員が実践力をつけていく必要がある。	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、全ての職員が実践力を身につけることができる。	法人で応急手当推進委員会を立ち上げ、誤嚥・窒息の手技は1年間繰り返しやってきた。今後も継続して徹底していき、出血・表皮剥離・骨折等の処置・手当を新たに応急手当推進委員会で一人ひとりに講習、訓練をする。どの講習をいつ受けたか、一覧表を作成し、講習もれのないように徹底する。グループホーム勉強会でも随時訓練をする。月2回ある法人の研究会でも緊急時の対応の講習、実技をする。	
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。